

外観より、競技に集中できるかが重要



—新国立競技場の建設について、一人のアスリートとしてどう感じているか。選手が大事なのは、あくまでプレーをするフィールド。トラックやハンマー投げでいえば、サークルのコンクリートの仕上げ。アスリートのパフォーマンスに関することに興味があるて、外観に関してはあまり立ち入るところではないと思っている。

—選手として望むことは。

フィールドやトラックとともに、大事なのは選手が招集場所から(競技場内)に入つていく動線であつたり、周囲に語学が分かれる人がいて、迷うことなくパフォーマンスに集中できるか。1万500人のアスリートが混乱してはいけない。そっちの方が重要な論点であるし、気になる。私もいろいろなところで試合をやっているが、そこに支障がない限り、問題ないと思う。

—選手は2520億円もかかるスタジアムを望んでいないのでは、と思ってしまう。前のスタジアムは50年以上もつた。サッ



力やいろんな競技が行われてきたことを考えると、向こう50年以上、世界に誇れる特別なスタジアムを造ることはうれしい。ただ、お金の話はスポーツが出るところではないかもしないが、ロンドンや北京と比べ、日本の場合は耐震問題があるし、建設費が高くなってしまった。言えることは、日本に一つしかないスポーツを超えたナショナルスタジアム。スポーツ以外でも使う。シンボリックな物という意味では期待もある。

—陸上でいえば練習場として使われるサブトラックが仮設になる可能性が高い。東京五輪後、陸上の国際大会を開催することは難しい。

当然、オリンピックのときはウォームアップエリアがないとできない。陸上からすれば世界選手権や大きい試合を開催するときには(サブトラックが)必要だと思うが、この辺は非常にハイレベルなところでの話し合いが行われている。なかなか私も見えてこないところがある。まずはオリンピックをやらなきゃいけない。その後、サブトラックも含めて神宮のエリア全体をどうバランスよく使うか。スポーツの活性化、アスリートも地域の人たちも使うでしょう。みんなで総合的に考えることが大事だと思う。

新国立 室伏選手に聞く

2020年東京五輪・パラリンピックの主会場となる新国立競技場の建設について、大会組織委員会のスポーツディレクターで2004年アテネ五輪男子ハンマー投げ金メダリストの室伏広治=写真=が本紙の取材に応じた。

(聞き手・森合正範、●面参照)



五輪後の神宮エリア 生かす道考えて